

取扱説明書

エンジン除雪機

HG-K6560C

ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してからお使いください。



除雪作業中に問題あった場合でも、その場で解決策の動画をご覧頂ける様、本体にQRコードを貼っています。詳細は、P.5をご覧ください。



目次

はじめに	3
安全上のご注意 製品を長くご愛顧いただくために	
安全にお使いいただくために	4
除雪機の安全に係る事項 除雪機の操作をしている時の安全に係る事項	
安全ラベル	5
各部の名称	6
主要諸元	7
組立て	8
梱包部品一覧表	8
下ハンドルの取付け	9
上ハンドルの取付け	10
走行クラッチワイヤの取付け	10
除雪クラッチワイヤの取付け	11
シュータの取付け	12
シュータ角度調整ワイヤの取付け	12
ロッカーアームの取付け	13
変速ロッドの取付け	14
ヘッドライトの取付け	15
ワイヤクリップの取付け	15
バッテリーアース線の接続	16
各部の取扱い	17
セルスターター	17
リコイルスターター	17
雪かき棒	17
変速レバー	18
シュータ角度調整レバー	18
シュータ方向調整ハンドル	18
サーキットプロテクタ	18
走行クラッチレバー	19
除雪クラッチレバー	19
ソリ	19
アクセルレバー	20
燃料コック	20
燃料ポンプ	20
緊急停止キー（セーフティーキー）	20
チョークつまみ	20
ヘッドライト	20
エンジンオイル、燃料の入れ方	21
エンジンオイルの給油	21
燃料の給油	21

運転前の点検	22
エンジンオイルの点検・補充	22
ギヤケースの点検	22
燃料の点検・補充	23
オーガ・ブローアの点検	23
走行クラッチ・除雪クラッチの点検	23
シュータの点検	23
各部の緩みやガタツキの点検	23
各部の異音の点検	23
排気状態の点検	23
運転操作の仕方	24
エンジンのかけ方（セルの場合）	24
エンジンのかけ方（リコイルの場合）	26
エンジンの止め方	26
移動の仕方	27
除雪作業の仕方	28
除雪作業の停止	29
シュータに雪が詰まった場合	30
固い雪に除雪部が乗り上げた場合	30
湿った雪を除雪する場合	30
積雪量が多い場合	30
深い雪・重い雪の除雪時に、エンジンの回転数が落ちた場合	30
点検・整備の仕方	31
エンジンオイルの点検・交換	31
燃料の抜取り	33
点火プラグの点検・整備	34
タイヤの点検・整備	34
グリス・潤滑油の塗布	35
ベルト周りの点検	35
オーガベルトの交換	36
変速ロッドの調整	37
走行クラッチ・除雪クラッチの張り調整	37
シュータ角度調整ワイヤの張り調整	37
オーガ・ブローアの点検	38
シャーピンの点検	38
バッテリーの点検	39
バッテリーの充電	40
バッテリーの交換	40
バッテリーの保管	40
オプション タイヤチェーンの取付け方	40
長期間使用しない時	41
バラシ図・パーツリスト	42
故障と思ったら	46

はじめに

このたびはエンジン除雪機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。
この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。
また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をした時に、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をした時に、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。



禁止

取扱においてその行為を禁止します。



指示

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。下記を熟読しご理解してからご使用ください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

除雪機の安全に係る事項



警告



指示

- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・回転しているオーガに接触すると負傷または死亡する恐れがあります。
- ・可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ・破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。
- ・機械カバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
- ・部品交換は、純正部品を使用してください。
- ・装置をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

除雪機の操作をしている時の安全に係る事項



警告



禁止

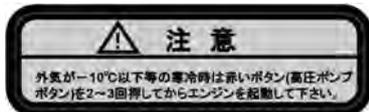
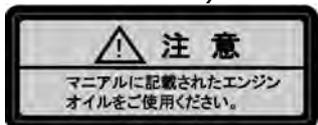
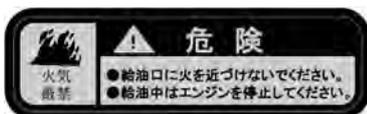
- ・指定された用途以外には使用しないでください。
- ・身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- ・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。
- ・正しい操作を知らない人、子供には操作をさせないでください。
- ・操作中は、子供を近づけないでください。操作者以外、装置へ近づけないでください。怪我の恐れがあります。
- ・砂利道は石が飛び出すなど危険です。除雪しないでください。
- ・雪の中に石が混入していると遠くまで飛ぶ事があるので十分注意してください。
- ・除雪部分、投雪口や回転部分に顔や手足、衣服などを近づけないでください。
- ・傾斜面を横切って除雪しないでください。
- ・坂道での除雪や停車はしないでください。



指示

- ・除雪する場所の異物はあらかじめ取除いておいてください。
- ・除雪部が異物に突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷していないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。
- ・除雪部分、投雪口などに詰まった雪を取除く時は、エンジンを停止し、誤ってエンジンがかからないようにしたうえで、回転が完全に止まった後に、雪かき棒を使って取除いてください。
- ・装置から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンを停止してください。
- ・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使ってください。
- ・滑りにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。
- ・坂道の走行には注意してください。
- ・後方へ走行する時は、足元及び背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。
- ・除雪時は操作に集中し、特にバック時は、滑らないよう足元にご注意ください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・停止する時は、オーガハウジングを接地させてください。

安全ラベル



このQRコードを読み取ることで、「組立て」「運転操作の仕方」「点検・整備の仕方」等を動画でご覧いただくことができます。また、「整備手順」や「取扱いの注意」等最新情報を随時追加・更新していきます。ぜひご利用ください。

※お持ちのスマートフォンにQRコードを読み取る機能が搭載されていない場合は、QRコードを読み取るためのアプリをダウンロードしてください。パソコンでご覧になる場合は、<http://www.shop.haige.jp/video/hg-k6560cn.html>

※本取扱説明書と動画では、手順が異なる場合があります。ご了承ください。



走行スピードが速いと、雪の排出量が追いつかず雪が詰まってしまいます。ゆっくり除雪してください。

使用前の注意事項

- ・雪が降る前に除雪場所の石や異物を取除いておいてください。
- ・4サイクルエンジンオイル(5W-30)量を確認し指定量入れてください。
- ・セル式は、バッテリーのケーブルを確実に接続してください。
- ・各ネジ等の緩みがないか確認してください。
- ・作業前は、必ず前後左右・投雪口方向の安全確認をしてください。

使用中の注意事項

- ・クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作しないでください。故障の原因になります。
- ・凍っている雪の上に積もった雪を除雪する場合、ソリを上げてください。
- ・投雪口に雪が詰まったら、必ずエンジンを停止し取除いてください。怪我の恐れがあります。
- ・急発進はしないでください。後進時は必ず後方の安全確認をし、ゆっくり後進してください。
- ・緊急時は、両手を操作レバーから放してください。安全キーがある場合は抜いてください。



燃料は無鉛レギュラーガソリンをご使用ください。

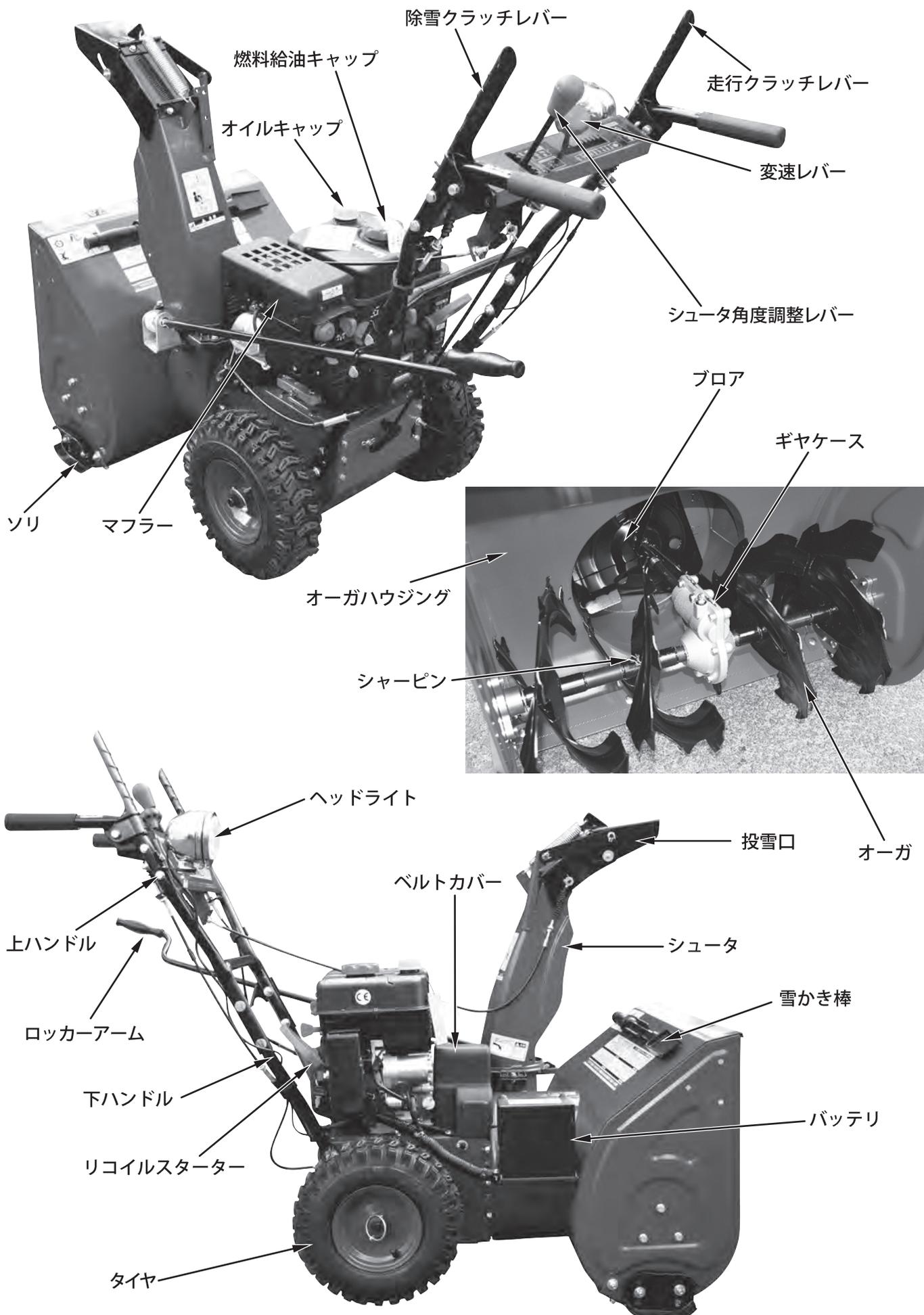
使用後の注意事項

- ・シーズン後はバッテリーを満充電にし、アース線を外して保管してください。
- ・シーズン後は、本機に付着した汚れ・水分を取除き各部に防錆・グリスを塗布してください。
- ・本機を1ヶ月以上使用しない場合は、燃料タンク・キャブレターの燃料を抜いてください。
- ・保管する場合、エンジンが冷めた状態でシートなどを掛けてください。

故障?と思ったら

- ・作業途中でエンジンが止まった → ガス欠の確認
- ・オーガ軸は回転するがオーガが回転していない → シャーピンを交換
- ・オーガプロアは回転するがオーガが回転しない → ギアの破損
- ・オーガもオーガプロアも回転しない → ベルトの切れ・外れ、ワイヤの張りが緩い
- ・車輪が片側しか回転しない → 車輪固定ピンの外れ
- ・両車輪が回転しない → 走行ベルトの切れ・外れ、ワイヤの張りが緩い
- ・雪の飛びが悪い → 重たい雪質、雪の詰まり、ワイヤ・ベルトの張りが緩い

各部の名称



主要諸元

型番	HG-K6560C
除雪幅	560mm
除雪高	510mm
最大投雪距離	15m ※使用環境により異なります。
投雪方向	190°
変速機	前6、後2
エンジン型式	Loncin LC170FDS 寒冷地仕様
馬力	6.5PS
総排気量	212 cm ³
始動方法	リコイルスターター／セルスターター
投雪口状態	手動ハンドル（側面）
操作ハンドル	両手（片手自走、片手除雪）
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
駆動タイヤ	チューブレスタイヤ 13×4.10-6
燃料タンク容量	3L
エンジンオイル	5W-30
エンジンオイル容量	0.6L
重量	84.3kg
サイズ	L1365×W660×H1100mm（ハンドルレバーまでの高さ）

※ハイガー産業は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

組立て

●梱包部品一覧表

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、すべてが完全であることを確認してください。
 2. 装置を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。
 3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。
- 不足している場合は、お手数ですがお買い求めの販売店までご連絡ください。

<p>A.本体</p> 	<p>B.上ハンドル</p> 	<p>C.下ハンドル</p> 
<p>D.シュータ</p> 	<p>E.変速ロッド</p> 	<p>F.ロッカーアーム</p> 
<p>G.シャーペン・スナップピンセット、 割リピン</p>  <p>G-1シャーペン G-3割リピン</p> <p>G-2スナップピン</p>	<p>H.ヘッドライト</p> 	<p>J.工具★</p>  <p>J-1 J-2 J-3 J-4</p>
<p>I. 緊急停止キー(セーフ ティーキー)</p> 		

★付属の工具は、簡易的なものです。
市販のペンチ、プライヤー、スパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

組立て

警告

- ・エンジンキーを「OFF」にし、作業を行ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

注意

- ・作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。



このQRコードを読み取ることで、「組立て」を動画でご覧いただくことができます。パソコンでご覧になる場合は、<http://www.shop.haige.jp/video/hg-k6560cn.html>

- ★付属の工具は、簡易的なものです。市販のペンチ、プライヤー、スパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

下ハンドルの取付け

下ハンドルを4本のボルトで本体に取付けます。

- 1 本体に予め仮留めしている下ハンドル取付ボルト左右2本ずつを外します。



下側は、ハンドルの角度を変えるための穴が2つあります。

- 2 下ハンドル（写真の向き）の取付穴と本体の取付穴を合わせ、ボルトを通して下ハンドルを本体にしっかり13mmのスパナで固定します。



組立て

上ハンドルの取付け

上ハンドルを、下ハンドルに取付ます。

- 1 下ハンドルの上ハンドル取付ボルト、ワッシャ、ナットを左右2カ所ずつを一旦外します。



- 2 上ハンドルを下ハンドルに重ね、取付け穴の位置を合わせ、外側からボルト、内側からワッシャを通しナットで確実に取付けます。



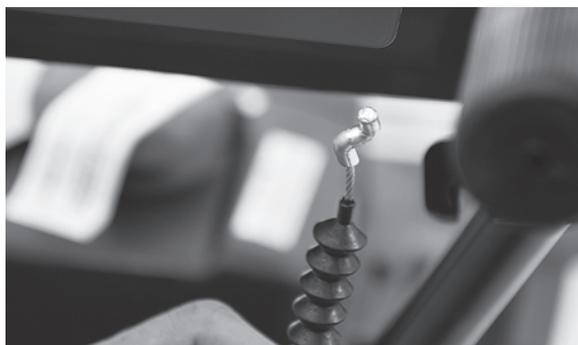
- 3 ロッドガイドのナットは仮止めにします。



走行クラッチワイヤの取付け

走行クラッチワイヤを右ハンドルに取付けます。

- 1 本体下右側から出ているワイヤの先端を、操作パネル下からレバーの下の穴に挿込みます。



組立て

- 2** 先端を挿入したら、回転させながら写真のようにワイヤを下向きにします。



- 3** ワイヤのナットを緩め本体内側ガイドにかませ、13mmのスパナで締付けます。



除雪クラッチワイヤの取付け

除雪クラッチワイヤを左ハンドルに取付けます。

- 1** 本体下左側から出ているワイヤの先端を、操作パネル左側とハンドルの隙間に、下から通します。



- 2** 先端をレバーの下の穴にはめ込みます。
※はじめは下の穴にはめ込みます。しばらく使用してワイヤが伸び気味になった場合は、上の穴にはめ替えます。



- 3** ワイヤのナットを緩め本体内側ガイドにかませ、13mmのスパナで締付けます。

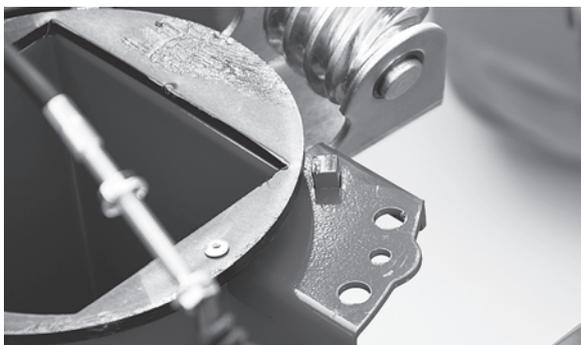


組立て

シュータの取付け

シュータを本体に取付けます。

- 1 シュータに仮留めしている3カ所の押さえ金具とボルト、ナットを一旦外します。



- 2 シュータの取付け穴と本体の取付け穴3カ所を合わせ、押さえ金具取付けナットを締付けます。この時、締付けすぎると、シュータの動きが鈍くなります。



シュータ角度調整ワイヤの取付け

シュータに角度調整ワイヤを取付けます。

- 1 シュータ角度調整レバーを前方にします。



- 2 シュータ先端の凸部に仮止留めしているワッシャ、割りピンを一旦外します。

- 3 操作パネルのシュータ角度調整レバー下より出ているワイヤ先端部を、投雪口の凸部にはめます。

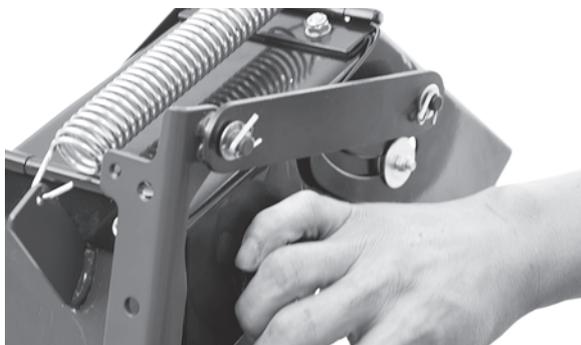


- 4 ワッシャ、割りピンで固定します。

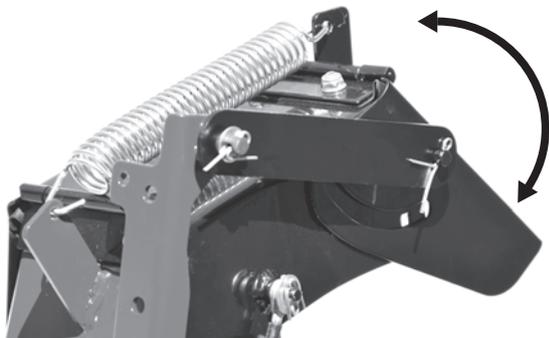


組立て

- 5** 写真のように投雪口を下向きの状態でワイヤ上部ナットを緩めワイヤをはめ、上下のナットを締付けます。



- 6** シュータ角度調整レバーを操作し、シュータの角度が変わるか確認します。



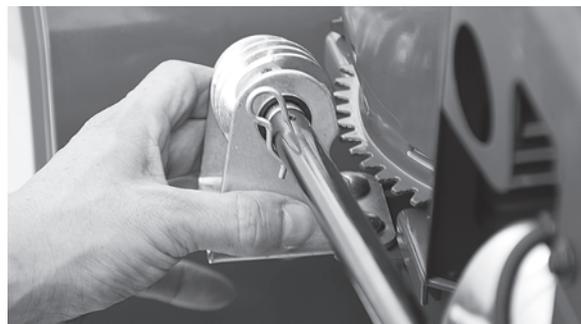
ロッカーアームの取付け

ロッカーアームを取付けます。

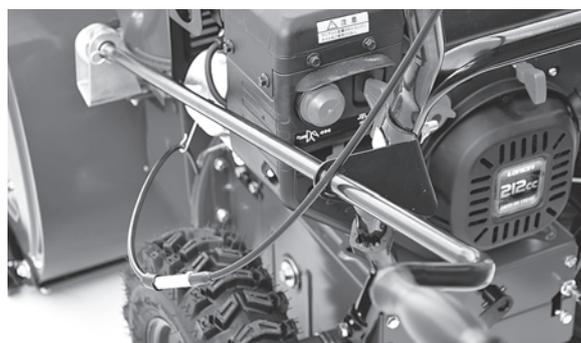
- 1** ギヤ固定ボルトを一旦緩めます。



- 2** ハンドル左側のロッドガイドにロッカーアームを通しギヤに挿込み、スナプリングで固定をします。その後、ギヤ固定ナットを締付けます。



- 3** ハンドル左側ステイのナットを締付けます。



組立て

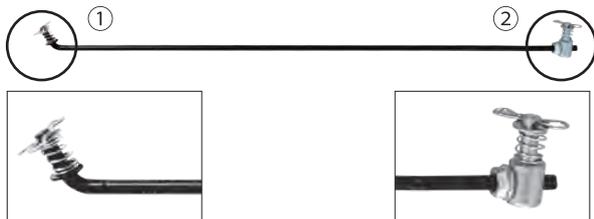
変速ロッドの取付け

変速ロッドを本体に取付ます。

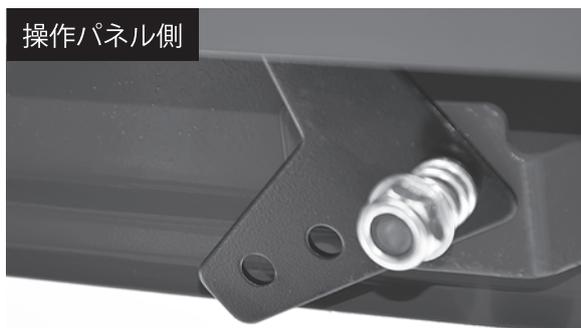
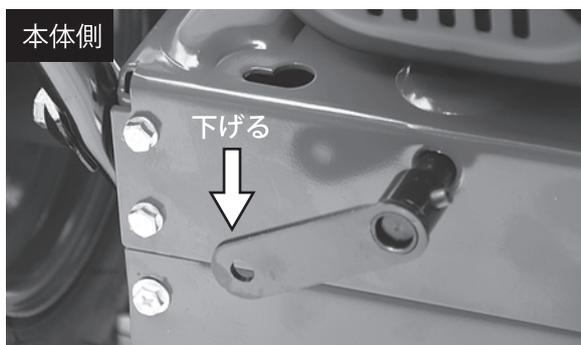
- 1** 変速レバーを「R2」の位置にします。



- 2** 変速ロッドの両端に予め留められているスナップピンを抜きます。その際、ワッシャ、スプリングを紛失しないよう注意してください。



- 3** 変速ロッドの先端①は本体側に、②は操作パネル側に取付けます。



- 4** 変速ロッドの先端①を本体側の穴に通し、ワッシャ、スプリングをはめ、スナップピンで固定します。



- 5** 変速ロッドの先端②を操作パネル側の穴に通し、ワッシャ、スプリングをはめ、スナップピンで固定します。



組立て

ヘッドライトの取付け

右ハンドルにヘッドライトを取付けます。

- 1 ヘッドライトに付いているナット、ワッシャを一旦外します。



- 2 右ハンドルの取付穴にヘッドライトのステイの穴を合わせ、ボルトを通しワッシャ、ナットを13mmのスパナで固定をします。



- 3 ヘッドライトから出ているコードと本体から出ているコードを接続します。



ワイヤクリップの取付け

ワイヤやコードをワイヤクリップでハンドルに固定します。

- 1 ハンドルに仮留めしているワイヤクリップを外し、ワイヤクリップにワイヤやコードを挟んで固定します。

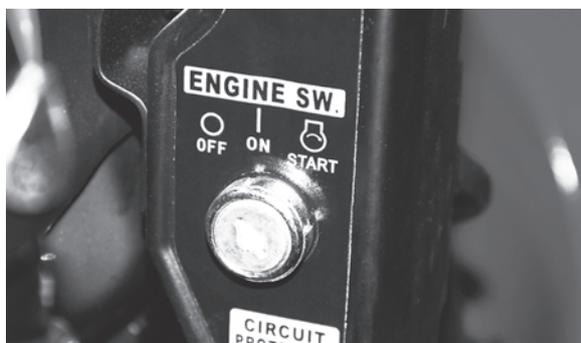


組立て

バッテリーアース線の接続

バッテリーアース線を本体に接続します。

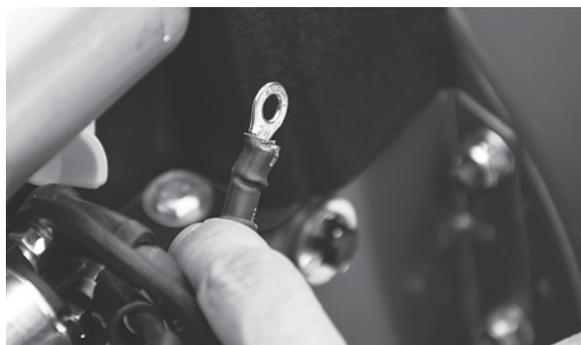
- 1 エンジンキーを抜きます。



- 2 ベルトカバーのボルトを10mmのスパナで外します。



- 3 バッテリーアース線端子をボルトに通して、ボルトを取付け固定します。



各部の取扱い

セルスターター

セルスターターでエンジンを始動することができます。



START エンジンをかける際は、この位置にします。セルスターターモーターが回り、キーから手を放すと自動的に「ON」の位置に戻ります。※キーの抜き取りはできません。

ON エンジン運転中の位置です。※キーの抜き取りはできません。

OFF エンジンを停止する位置です。※キーの抜き取り、挿込みができます。

⚠ 注意

- セルスターターモーターを連続で5秒以上回転させないでください。バッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で、長時間「ON」の位置で放置しないでください。バッテリー上がりの原因になります。

リコイルスターター

リコイルスターターでもエンジンを始動することができます。



1 セルスターターを「ON」の位置まで回します。(P.26 参照)

2 リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰り返します。

⚠ 注意

- リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- 一度に6回以上は引張らないでください。
- 引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- 運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

雪かき棒

オーガやシューターに詰まった雪や付着した雪を取除く時に使用します。



⚠ 警告

- 回転部に詰まった雪や付着した雪を取除く時は、エンジンスイッチを切り、各部が完全に停止してから行ってください。

各部の取扱い

変速レバー

前進（6 段）、後進（2 段）の切替えや走行速度を調節する時に操作します。



レバーを F 側

前進スピードは 6 段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

レバーを R 側

後進スピードは 2 段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

⚠ 注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

シュータ角度調整レバー

投雪角度を調整します。



レバーを奥

シュータの投雪口は下向きになります。

レバーを手前

シュータの投雪口は上向きになります。

シュータ方向調整ハンドル

ハンドル（ロッカーアーム）を回すことで、投雪方向を 190° の範囲で調整することができます。



ロッカーアームを右回転

シュータは右に回転します。

ロッカーアームを左回転

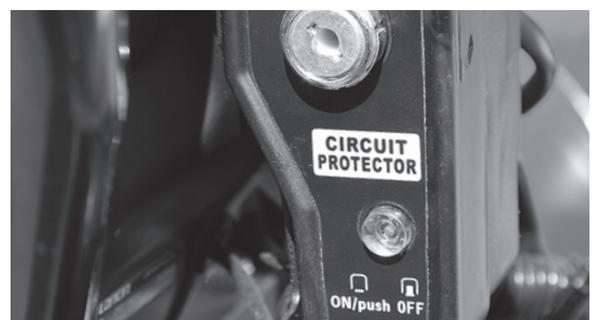
シュータは左に回転します。

⚠ 注意

- シュータに雪が詰まった状態で、ロッカーアーム操作を行わないでください。

サーキットプロテクタ

定格電流を超えた電流が流れると回路を保護するような構造となっています。復帰ボタンを押すことにより機能が復活します。



各部の取扱い

走行クラッチレバー

除雪機を走行させる時にレバーを握ります。



レバーを握る

除雪機が走行します。

レバーを放す

除雪機が停止します。

除雪クラッチレバー

オーガを回転させる時に握ります。



レバーを握る

オーガが回転します。

レバーを放す

オーガが停止します。

⚠ 注意

- 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーの操作は絶対に行わないでください。変速輪クッションの破損の原因になります。

ソリ

ソリは、高さを調整することで路面状況にあった除雪ができます。

- 1 オーガーハウジングの下に枕木等を挿込み浮かせます。
- 2 ソリのボルトを緩め、最適な高さに調整します。



	オーガーハウジング下端と路面の隙間
砂利などが多い路面	広くする
普通路	5mm 程度
圧雪路	狭くする

⚠ 注意

- オーガーハウジング下端と路面の隙間を狭くし過ぎると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付けたりすることがあります。また、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前に進むことがあります。

各部の取扱い

アクセルレバー

運転中に操作するとエンジンの回転数が変わります。



レバーを「かめ」側

エンジンの回転数が下がります。

レバーを「うさぎ」側

エンジンの回転数が上がります。

燃料コック

コックを横にするとエンジンに燃料が供給されます。



燃料ポンプ

燃料ポンプを3~4回軽く抵抗を感じる程度まで押すことで、燃料をキャブレターに行きわたらせます。

(初回のみ)

注) 押しすぎるとエンジンが始動しません。



緊急停止キー（セーフティーキー）

緊急時には「緊急停止キー（セーフティーキー）」を抜くことでエンジンを停止させることができます。

「緊急停止キー（セーフティーキー）」を操縦者のベルトなどにヒモで繋いでおくと、万が一の転倒など際にキーが抜け、エンジンを停止させます。(P.25 参照)



チョークつまみ

エンジンが冷えている時は、チョークマーク  に合わせます。



⚠ 注意

- ・暖機運転後は、チョークマーク  に戻してください。

ヘッドライト

セルスターターを「ON」にし、スイッチの  を押すと点灯します。



エンジンオイル、燃料の入れ方

エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

- 2 車体を水平な場所に移動させます。

- 3 オイル給油キャップを外し、エンジンオイルを給油します。

注) エンジンテストを行っているため、多少オイルが残っている場合があります。オイルゲージを確認しながら少しずつ給油してください。



- 4 補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

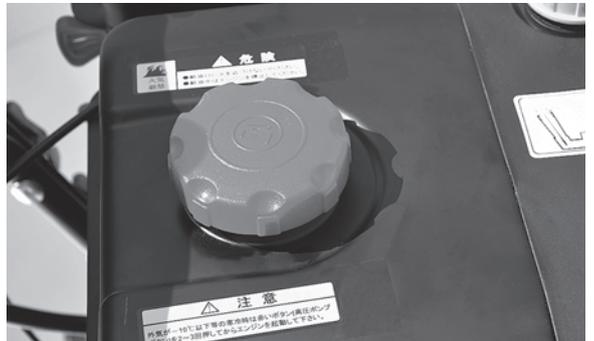
燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	3L

- 2 燃料給油キャップを開け、満タンレベルゲージを超えないように給油します。



満タンレベルゲージ

- 3 補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

運転前の点検

警告



禁止

- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・ハイオクガソリンは使用しないでください。



指示

- ・燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

エンジンオイルの点検・補充

エンジンオイル量・汚れを点検します。
 オイル交換については、「点検・整備の仕方P.31」を参照ください。

- 1 本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを外します。

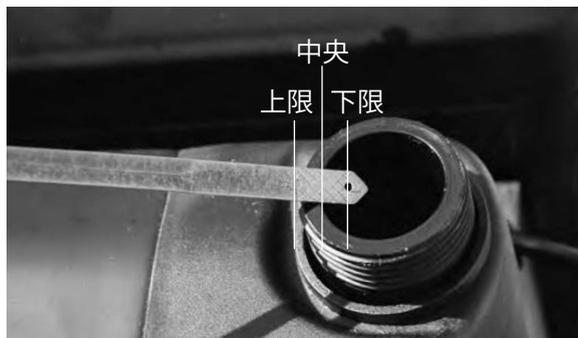


- 2 オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

- 3 オイル量は、上部オイル給油キャップに付いているオイルゲージでも確認できます。



- 3 オイル量が少ない時は、新しいエンジンオイルを補充します。

- 4 補充後、給油キャップを確実に閉めてください。

ギヤケースの点検

ギヤケースにはグリスが入っています。20 時間毎にグリスを入れてください。(P.35 参照)

※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

運転前の点検

燃料の点検・補充

燃料（無鉛レギュラーガソリン）の量を点検します。

- 1 燃料給油キャップを外し、液面を見て残量を確認します。少ないようであればガソリンを少しずつ満タンレベルゲージ上限（赤い目印）を超えないように給油します。



満タンレベルゲージ

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	3L

- 2 補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

オーガ・ブローの点検

凍結や曲がり・変形・欠け・異物がはさまっていないかを点検します。

また、シャープピンが折れていないかを点検します。



走行クラッチ・除雪クラッチの点検

エンジン始動後、走行クラッチと除雪クラッチを操作し、「走行」「回転」「停止」するか点検します。



シュータの点検

シュータ角度調整ノブとシュータ方向調整ロッカーアームを操作し、不具合がないか点検します。



各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。

ボルト、ナット等の緩みであれば、締付けます。

不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

各部の異音の点検

エンジン始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

排気状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

運転操作の仕方

警告

- 燃料の臭いがある場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- 運転中に回転部及び可動部に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻込まれ重大な事故の恐れがあります。
- 周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。

このQRコードを読み取ることで、「運転操作の仕方」を動画でご覧いただくことができます。パソコンでご覧になる場合は、<http://www.shop.haige.jp/video/hg-k6560cn.html>

エンジンのかけ方（セルの場合）

④燃料ポンプ ⑤緊急停止キー（セーフティーキー）

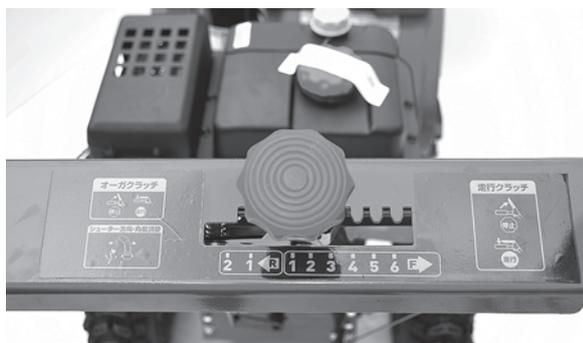


③チョークつまみ ②燃料コック ①アクセルレバー

注意

- エンジンをかける際は、走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握らないでください。

1 変速レバーを「F1」にします。



2 ①のレバーを「かめ」と「うさぎ」マーク中央にします。



3 ②の燃料コックを横向き（ON）にします。



4 ③のチョークつまみをチョークマークにします。



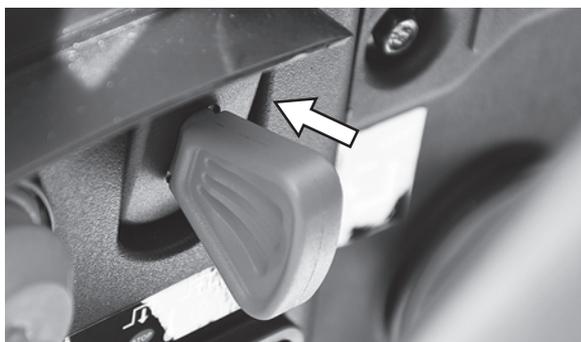
運転操作の仕方

- 5** ④の燃料ポンプを3～4回軽く抵抗を感じる程度まで押します。(初回のみ)

注) 押しすぎるとエンジンが始動しません。



- 6** ⑤の緊急停止キー(セーフティーキー)を奥まで挿入します。



⚠ 注意

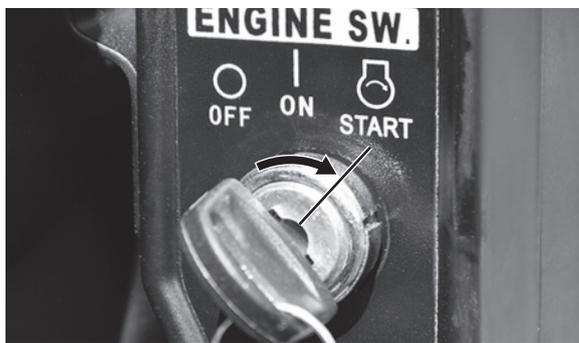
- 緊急停止キー(セーフティーキー)は、奥まで確実に挿入してください。確実に挿入されていないとエンジンは始動しません。

👉 ワンポイント

緊急停止キー(セーフティーキー)の穴にヒモを取付け、除雪作業の邪魔にならない長さでベルト等に結び付けます。万が一の転倒など際に、緊急停止キー(セーフティーキー)が抜け、エンジンを停止させます。



- 7** セルスターターを「START」の位置まで回すとエンジンが始動します。始動したらキーから手を放すと自動的に「ON」の位置に戻ります。



- 8** エンジン始動後暖機運転を行い、異常がなければ③のチョークつまみをチョークマーク|||に戻します。



⚠ 注意

- 暖機運転後は、チョークつまみを必ずチョークマーク|||に戻してください。

運転操作の仕方

エンジンのかけ方（リコイルの場合）

エンジンのかけ方（セルの場合）と **6** まで同じ手順です。

7 セルスターターを「ON」の位置まで回します。



8 リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真つすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰返します。



⚠ 注意

- ・リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- ・一度に6回以上は引張らないでください。
- ・引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- ・運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

9 エンジン始動後暖機運転を行い、異常がなければ③のチョークつまみをチョークマーク  に戻します。

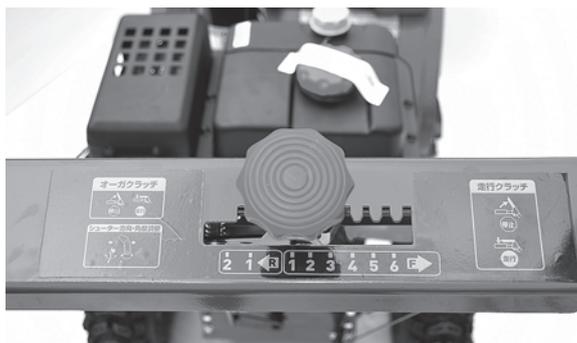


⚠ 注意

- ・暖機運転後は、チョークつまみを必ずチョークマーク  に戻してください。

エンジンの止め方

1 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放し、変速レバーを「F1」にします。

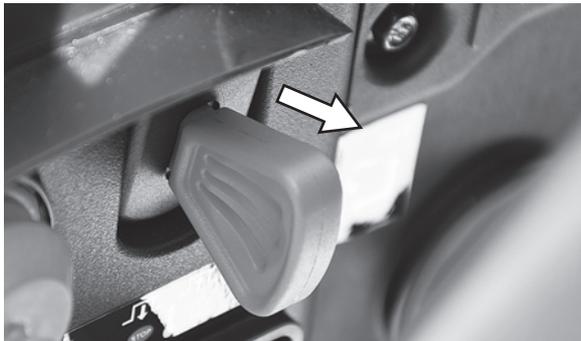


2 セルスターターを「OFF」の位置まで回します。



運転操作の仕方

- 3 または、⑤の緊急停止キー（セーフティーキー）を抜きます。



- 4 ②の燃料コックを縦向き（OFF）にします。



⚠ 注意

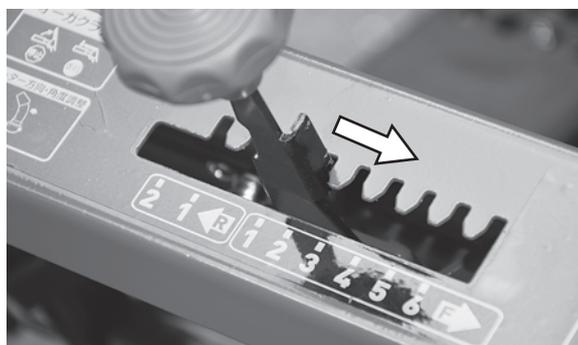
・除雪機は、水平な場所に駐車してください。

移動の仕方

- 1 P.24を参照にエンジンを始動します。
- 2 ハンドルを押し下げ、オーガハウジングを浮かせた状態にします。
- 3 走行クラッチレバーをゆっくり握ります。



- 4 変速レバーを「F1」から徐々に最適な速度の位置にします。



⚠ 注意

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

運転操作の仕方

警告

- ・シュータを人や自動車、建物に向けないでください。
- ・オーガに異物が巻付いた時は、エンジンをすぐに停止し、異物を取除いてください。
- ・除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してからご使用ください。

除雪作業の仕方

- 1 オーガハウジング高さ調整をソリで最適な高さに調整します。(P.19 参照)
- 2 シュータ方向調整ハンドルを操作し、投雪方向を調整します。(P.18参照)
- 3 シュータ角度調整レバーを操作し、投雪距離を調整します。(P.18参照)
- 4 アクセルレバーでエンジンの回転数を上げます。(P.20参照)
- 5 除雪クラッチレバーをゆっくり握るとオーガが回転します。



警告

- ・投雪方向の安全を確認してから、除雪クラッチレバーを握ってください。

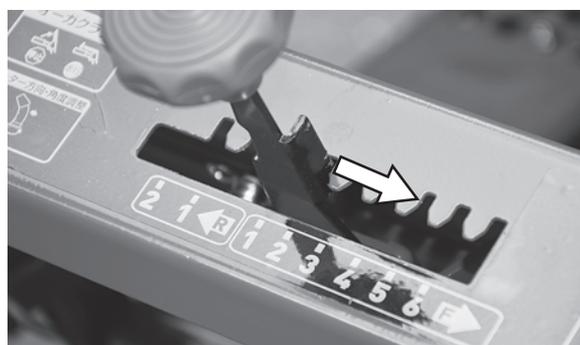
- 6 変速レバーが「F1」にあることを確認し、走行クラッチレバーをゆっくり握ります。



- 7 変速レバーで速度を変える場合は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーから手を放してから操作します。



- 8 変速レバーを「F1」にします。レバーはゆっくり操作してください。



警告

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

ワンポイント

除雪作業は低速「F1」で行うのがコツです。走行速度が速すぎると、オーガハウジングに雪がいっぱいになり、投雪が間に合わず雪が詰まってしまうです。

運転操作の仕方

⚠ 注意

- 除雪機は、水平な場所に駐車してください。
- 作業終了後、除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してください。

除雪作業の停止

- 1 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーから手を放します。走行とオーガの回転が停止します。



- 2 変速レバーを「F1」にします。



- 3 除雪クラッチレバーを握り、オーガを空転させ、オーガに付着した雪を取除きます。



- 4 除雪クラッチレバーから手を放し、オーガの回転を停止させます。

- 5 セルスターターを「OFF」の位置まで回します。



- 6 燃料コックを縦向き (OFF) にします。



⚠ 注意

- 本体に付着した雪は取除いてください。
- 除雪作業終了後は、雨ざらしにしないでください。
- ブロア部分に雪が付着したまま保管しますと、凍結してベルトの伸びや破損に繋がります。
- ワイヤ部分に雪が付着したまま保管するとワイヤの伸びや破損に繋がります。

運転操作の仕方

シュータに雪が詰まった場合



警告

- ・シュータに詰まった雪を除去する時は、エンジンを停止し、オーガの回転が止まってから、雪かき棒で雪を取除いてください。
- ・エンジンが回っている時は、シュータに手を絶対に入れないでください。怪我をする恐れがあります。

1 エンジンを停止させ、オーガの回転が完全に停止したことを確認します。

2 シュータ内に詰まった雪を雪かき棒で取除きません。
※詰まったまま使用すると、ベルトが伸びたり切れたりする可能性があります。

固い雪に除雪部が乗り上げた場合

前・後進を繰り返すことで、平らに除雪できます。

湿った雪を除雪する場合

湿った雪の場合は、シュータに雪が詰まりやすくなります。

積雪量が多い場合

積雪量が多く、オーガハウジングよりも雪の高さが高い場合は、段階的に除雪を行います。

オーガハウジングを少し上げたり、ソリの高さ調整をします。

また、雪壁の切削量が多い場合は、シャーピンが折れることがあるので、進入速度には注意が必要です。

深い雪・重い雪の除雪時に、エンジンの回転数が落ちた場合

1 エンジン回転が回復するまで、走行クラッチレバーを放します。



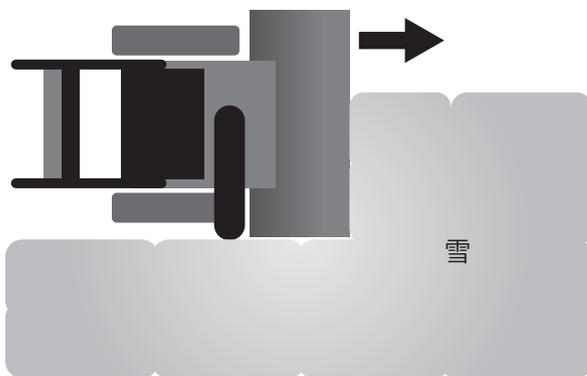
警告

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

2 オーガハウジング内の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら、走行クラッチレバーを握り前進します。

ワンポイント

オーガハウジングにかかる雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。



点検・整備の仕方

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。

除雪期前	除雪期	除雪期後
<p>▼シーズン前点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイルの交換 P.31バッテリーの点検P.39点火プラグの交換P.34ベルト点検のP.35タイヤの点検P.34	<p>▼初回20時間点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイル交換P.31 <p>▼運転前点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイルの点検・補充P.22燃料の点検・補充P.23オーガ・ブローアの点検 P38走行クラッチ・除雪クラッチの点検 P.23シュータの点検 P.23各部の緩みやガタツキの点検 P.23各部の異音の点検 P. 23排気状態の点検 23	<p>▼シーズン後点検</p> <ul style="list-style-type: none">燃料の抜き取りP.33各部グリス・潤滑油の塗布P.35バッテリー接続コード取外 P.39

警告

- 安全を確保し作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管してください。

このQRコードを読み取ることで、「点検・整備の仕方」を動画でご覧いただくことができます。パソコンでご覧になる場合は、<http://www.shop.haige.jp/video/hg-k6560cn.html>

エンジンオイルの点検・交換

【エンジンオイルの交換】

初回 20 時間、以降 50 時間毎にエンジンが冷えた状態で行ってください。

■エンジンオイル交換の手順

1 廃油受け、枕木等を準備します。

2 本体下に枕木等を入れ、タイヤを浮かせます。



点検・整備の仕方

- 3** タイヤのピンを抜き、タイヤを取外します。

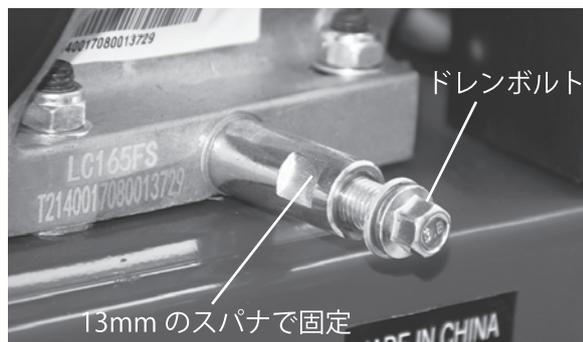


- 4** 下に廃油受けを置きます。



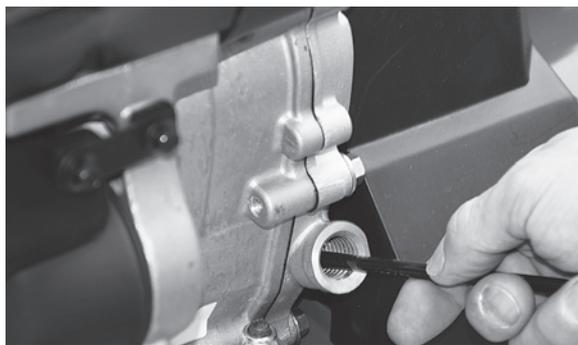
- 5** オイル給油キャップを緩めます。

- 6** 13mm のスパナでドレン奥を固定しながら、ドレンボルトを 10mm のスパナで反時計回りに回し緩めるとオイルが出てきます。



- 7** 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。

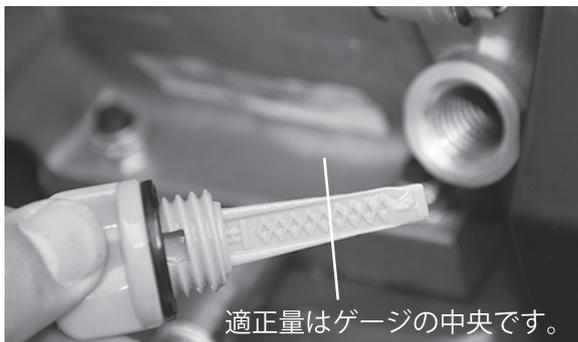
- 8** 市販のオイルチェンジャーで抜くことも出来ます。
※操作方法は、オイルチェンジャーの取扱説明書に従ってください。



- 9** 市販のオイルジョッキを用意します。



- 10** 新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央までゆっくり少しずつ入れます。



点検・整備の仕方

上部オイル給油口ゲージの場合も中央まで



推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

11 給油後は、確実にキャップを締めます。

燃料の抜取り

1 燃料タンクのキャップを外し、タンクストレーナーを外し燃料を手動のポンプ等で抜きます。



2 燃料コックを縦(OFF)にします。



3 燃料を受ける容器を用意します。

4 O部分のボルトを緩めて、ガソリンを容器に受けます。
キャブレターの燃料を抜くことができます。



5 燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

点検・整備の仕方

点火プラグの点検・整備

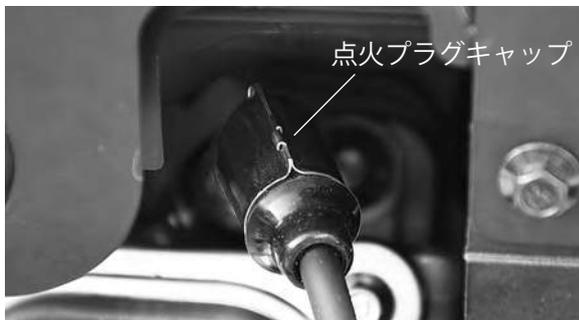
点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。

■使用工具

プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

■点検・清掃の仕方

- 1 点火プラグキャップの金属部を持って取外します。
※エンジンが冷えている状態で行ってください。



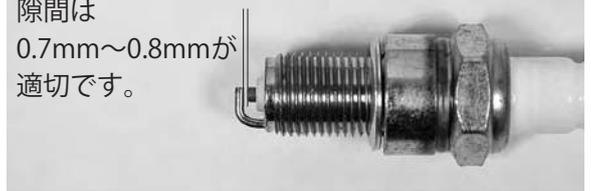
- 2 点火プラグをプラグレンチで取外します。



- 3 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



隙間は
0.7mm～0.8mmが
適切です。



交換時期	250 時間運転毎
適応 点火プラグ	BPR5ES(NGK) W16EPR-U(DENSO)

- 4 取外しと反対の手順で取付けます。

タイヤの点検・整備

タイヤの傷・摩耗を点検します。

■点検手順

- 1 目視にて破損や亀裂がないか確認します。
パンク・亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。



- 2 タイヤの空気圧を確認します。

空気圧	1.6kgf/cm ² (166Kpa)
-----	---------------------------------

点検・整備の仕方

警告

- ・回転部分の点検は、絶対にエンジンがかからないことを確認してから行ってください。
また、軍手などの絡まりやすいものの着用は絶対避けてください。

グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撻動部を清掃し、グリスを補給します。可動部分は、潤滑油を塗布します。
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

- 1 グリス、グリスガンを用意します。

- 2 グリスニップル（頭径 6.5mm）からグリスを充填します。



- 3 シュータの撻動部やワイヤ等の可動部等に潤滑油やグリスを塗布します。



ベルト周りの点検

- 1 シュータ横の黒い樹脂製ベルトカバーのボルト2カ所を外し、カバーを取外します。



- 2 オーガベルト、走行ベルトに摩耗や亀裂がないか確認します。



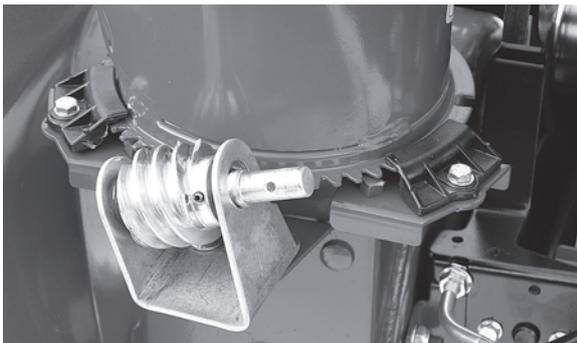
オーガベルト

走行ベルト

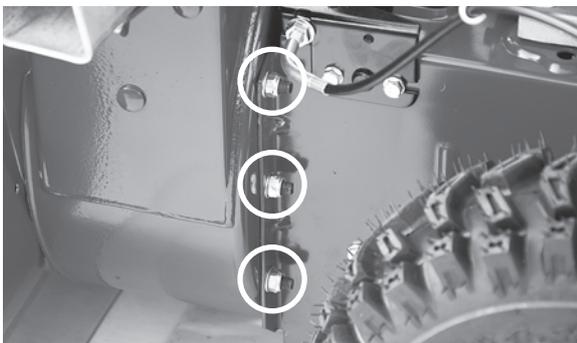
点検・整備の仕方

オーガベルトの交換

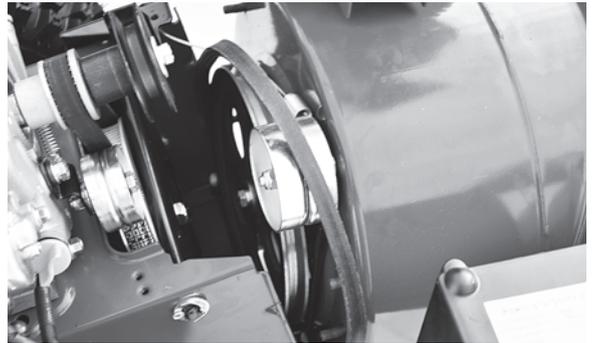
- 1 シュータ横の黒い樹脂製ベルトカバーを取外します。(P.35 参照)
- 2 除雪クラッチレバーのワイヤとシュータ方向調整のロッカーアームを外します。



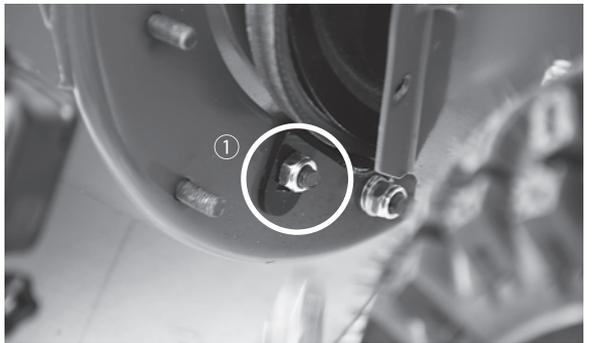
- 3 オーガハウジングと本体を接続してるボルト 6ヶ所を外します。



- 4 オーガハウジングと本体を切り離します。



- 5 ①ベルト押さえ金具のボルトを緩め、ベルト下側を先に外します。次にプーリーを押しベルト上側を外します。



- 6 新しいベルトを、取外しと逆の手順で取付けます。

- 7 オーガハウジングと本体を接続し、外した除雪クラッチレバーのワイヤとシュータ方向調整のロッカーアームを元に戻します。

点検・整備の仕方

変速ロッドの調整

- 1 変速レバーを「R1」と「F1」の間に合わせます。



- 2 変速ロッド上部を外しナットを緩め、高さの調整をします。



- 3 本体下側のアームが水平になるよう変速ロッドを調整します。



走行クラッチ・除雪クラッチの張り調整

- 1 ナットを緩め調整します。（写真は走行クラッチワイヤ）



- 2 中間のワイヤでも調整が出来ます。（写真は走行クラッチワイヤ）



シュータ角度調整ワイヤの張り調整

- 1 シュータ部のナットを緩めることで張りの調整が出来ます。



点検・整備の仕方

⚠ 警告

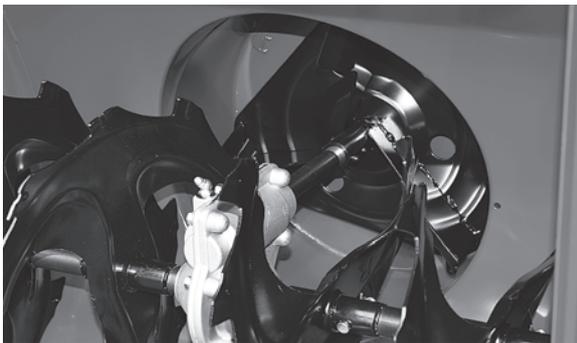
- ・回転部分の点検は、絶対にエンジンがかからないことを確認してから行ってください。
また、軍手などの絡まりやすいものの着用は絶対避けてください。

オーガ・ブローアの点検

- 1 オーガ部分に破損や変形がないか確認します。



- 2 ブローア部分に破損や変形、異物の挟込み、凍結がないか確認します。



シャープピンの点検

- 1 エンジンを停止します。
- 2 雪が詰まっている時は雪かき棒で取除きます。
- 3 シャープピンに折れや亀裂がないか確認します。
破損がある場合は新品と交換します。
交換は、スナップピンを外し、シャープピンを抜取ります。取付は、逆の手順です。



⚠ 注意

- ・シャープピンは専用品をご使用ください。

👉 シャープピンとは？

シャープピンとは、オーガを固定しているボルトのことで、除雪中に石など硬いもの当ててしまった時に、その衝撃をギア部分まで伝達させず、損傷を与えないために、折れやすくしたボルトのことです。

点検・整備の仕方

警告

- ・バッテリーは引火性ガス（水素ガス）が発生し、取扱いを誤ると爆発し、怪我をする恐れがあります。下記を必ず守ってください。
- ・火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、火気を近づけないでください。爆発の恐れがあります。
- ・落下などの強い衝撃を与えないでください。
- ・バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付着した時はすぐに多量の水で洗い流してください。万一、目に入った時は、すぐに多量の水で洗い流し、医師に相談してください。
- ・子供の手の届く所に置かないでください。

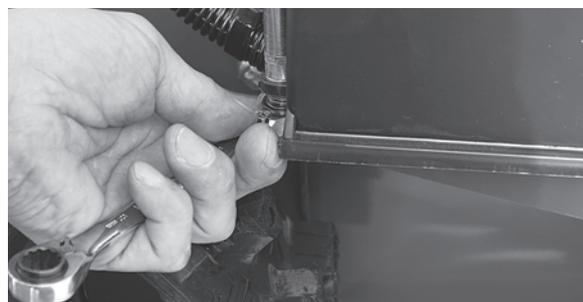
注意

- ・バッテリーは密閉式の12Vです。
- ・バッテリーは液入り充電済です。液の補充・点検は不要です。
- ・充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。
- ・長期間ご使用にならないときは、3ヶ月ごとに充電してください。
- ・バッテリーを交換する時は、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

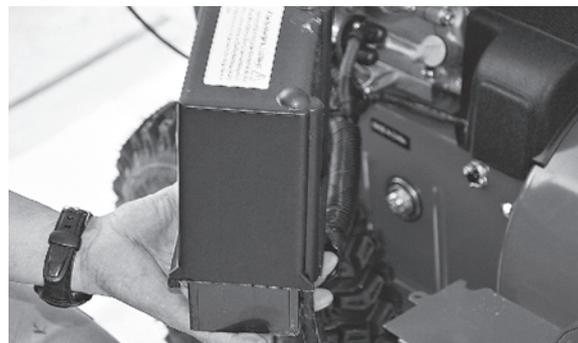
バッテリーの点検



- 1** バッテリーカバー横のボルトを緩めます。



- 2** カバーをスライドさせるか、または下部を広げて外します。



- 3** カバーからバッテリーを抜取ります。



- 4** バッテリー端子との接続が、しっかり固定されているか点検をします。緩んでいる場合は、しっかり固定されるまでナットを締直します。

点検・整備の仕方

- 5 腐食(白い粉・錆など)が見られる場合は、ワイヤブラシ等で取除きます。
- 6 バッテリーの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

バッテリーの充電

- 1 バッテリーを充電するには、専用のバッテリー充電器をご用意ください。充電方法は、バッテリー充電器の取扱説明書に従ってください。



注意

・密閉式バッテリーを充電するには、専用の充電器が必要です。

バッテリーの交換

- 1 バッテリーのマイナスリード線(黒色配線)を外します。次にプラスリード線を外し、新品と交換します。この時、ショートしないよう十分ご注意ください。

オプション

タイヤチェーンの取付け方

- 1 車体の下に枕木等を敷き、タイヤを浮かせた状態でチェーンを下から被せます。



- 2 チェーンは、汎用チェーンのため長めになっています。チェーンのたるみがなくなるまで引っ張りながら、タイヤに均等に被さるようにします。

バッテリーの保管

- 1 除雪期後は、バッテリーを満充電し、アース線を取外します。
- 2 除雪期前には、必ずバッテリーを充電し、バッテリーの状態を確認してからアース線を取付けます。
※廃バッテリーの処分方法は、各自治体にお問い合わせください。



注意

・バッテリーは常に充電してください。放電した状態で保管しますと、バッテリー機能が回復できず、使用できなくなります。

- 3 フックは2つ目あたりのチェーンに通し、写真のように爪を引っかけます。余ったチェーンは結束バンド等で固定します。



長期間使用しない時

除雪機を長期に渡り使用しない時は、次のお手入れを行ってください。

- 1 保管する時は、平坦で堅い地面に水平に置てください。
- 2 保管する時は、オーガハウジングを接地させてください。
- 3 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。(P.32参照)
- 4 エンジンをかけ、燃料切れで停止するまでまわし、キャブレター内の燃料を使い切ります。
- 5 エンジンスイッチを停止しキーを抜いてください。
- 6 燃料タンクの口にあるタンクストレーナーを清掃します。
- 7 バッテリーを満充電し、アース線を外します。(P.40参照)
- 8 各部のボルト類の破損、腐食、緩みを点検します。
- 9 防錆、潤滑油を塗布します。

警告

- エンジンはOFFにして作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対におやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

故障と思ったら

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	①始動スイッチボタンの不良	交換
	②点火プラグ不良	交換 (P.34 参照)
	③点火プラグ・キャップ接続不良	確実に接続
	④イグニッションコイルの不良	交換
	⑤オイルが少ない	オイル追加 (P.21 参照)
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料が入っていない	燃料を入れる (P.21 参照)
	②燃料コックが閉じている	コックを開く (P.20 参照)
	②燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換
	③燃料タンクの錆び又は、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレター詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除
	①オイルの入れすぎ	オイル交換 (P.31 参照)
	②オイルにガソリンが混ざっている	オイル交換 (P.31 参照)

●エンジンはかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる

症状	原因	対処
	①エアフィルタの汚れ (白煙が出る)	清掃又は交換
	②キャブレターの調整不良	調整

●エンジンの回転が高い

症状	原因	対処
Vベルトが滑っている	①Vベルトの緩み	張り調整 (P.36 参照)
	②Vベルトの摩耗	交換 (P.36 参照)

●セルが回らない

症状	原因	対処
	①バッテリーが上がっている	交換
	②バッテリー端子が外れている	正しく接続 (P.39 参照)
	③ヒューズが切れている	交換
	④走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握っている	クラッチレバーを放す

故障と思ったら

●うまく走行できない

症状	原因	対処
前進走行しない	①変速輪クッションが磨耗、亀裂がある	変速輪クッション交換
	②走行ベルトが摩耗、亀裂、破損	走行ベルト交換
	③走行ワイヤ破損	走行ワイヤ交換
進みにくい	①シャープピンが折れている	シャープピン交換 (P.38 参照)
	②オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.19 参照)
	②オーガハウジングに雪が付着、堆積している	付着した雪を雪かき棒で落とす
後進しない	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.19 参照)

●うまく除雪作業ができない

症状	原因	対処
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	詰まった雪を雪かき棒で落とす
雪を集められない	オーガに雪が付着している	付着した雪を雪かき棒で落とす
オーガが回転しない	①シャープピンが折れている	シャープピン交換 (P.38 参照)
	②オーガベルトが切れている	ベルトの交換 (P.36 参照)
雪の飛びが悪い	①エンジンの負荷が高い	走行速度を上げる
	②シャープピンが折れている	シャープピン交換 (P.38 参照)
固い雪に乗り上げて 食い込まない	①オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.19 参照)
	②シャープピンが折れている	シャープピン交換 (P.38 参照)
オーガが路面に当たる	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.19 参照)

販売・修理店

販売・修理店は随時増えています。

販売・修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

オフィシャルサイト▶<http://www.haige.jp/agency.html>

本店サイト▶<http://www.haigeshop.net/new/2015-07-02-113023.html>

楽天サイト▶<http://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/after.html>

ヤフーサイト▶<https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

※ハイガー産業は、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

ハイガー産業 株式会社

〒370-0503 群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3

<http://www.haigeshop.net/>

本取扱説明書を熟読しても、弊社のサイトや動画等を見ても、問題が解決しない場合は、お手数ですが下記までお問い合わせください。その際、迅速なご対応ができるよう「お問い合わせ件名」を必ずお伝えください。
件名：「初期不良」「1年保証内故障」「1年保証外故障」「使用方法」「その他」

お問い合わせ

ホームページお問い合わせフォーム:<http://www.haigeshop.net/contact>

TEL. 0276-55-2275 FAX. 0276-55-2276

※平日12:00～13:00はお電話は繋がりません。

※スタッフ一同、迅速・丁寧な対応を心がけておりますが、季節商品等お問い合わせが集中する時期は、電話が繋がりにくくなったり、折り返し対応や折り返しのご連絡が遅くなる場合がございます。誠に恐れ入りますが、順次対応いたしますのでお待ちいただけますようお願い申し上げます。

お急ぎのご用件でなければ、ホームページお問い合わせフォームよりご連絡をいただけますと幸いです。

FAXは24時間受付ておりますが、営業時間外や弊社休業日にいただいたお問い合わせに関しましては、翌営業日以降に順次対応させていただきます。ご了承ください。

◎営業時間：9:30～17:00(第1・3・5土曜日は12:00まで) ◎定休日：日曜、祝日、第2・4土曜日

